

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

728-639

事務事業名	南信濃地域交流センター				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	南信濃自治課	課等名	南信濃自治振興センター		包含する細々目							344,744
政策	9 市民と共に進める行政経営											
施策	91 市民参画による協働の促進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条列等	新市建設計画、過疎計画					
		事業期間	18年度	～	19年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	地域交流センター施設	建物の全延床面積(m ²)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			1548.44				
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	都市部との交流促進のほか、公民館(自治振興センター含む)及びまちづくり委員会等の拠点施設として、市民と協働のまちづくりを促進するための施設となる。	工事進捗率(%) = 本年度工事費 ÷ 総工事費	18目標	50	最終目標	19	
			18実績	23	19目標	100	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<p>当地域は浜松市に隣接し、今後三遠南信自動車道の整備に伴い、東海地方との交流促進が期待されるため、これらの地域との交流事業のほか、公民館(自治振興センター含む)やまちづくり委員会をはじめとする各種団体の活動の拠点になる施設を整備する。また、交流ホールなどのフリースペースはイベントなど多目的に利用する。</p> <p>・鉄筋コンクリート造り2階建 1階床面積789.06m² 2階床面積759.38m² 延床面積1,548.44m²</p>	<p>・入札指名業者選定 ・入札実施 ・施工業者決定(建築工事、機械設備工事、電気工事、工事管理業務委託) ・工事着工</p>	<p>契約件数 契約額</p>	<p>4 565425 (全体額)</p>
		<p>施設の完成、19年12月オープン 現公民館(自治振興センター含む)の取り壊し CATVセンター設備、防災行政無線設備、県防設備、電話設備等移設工事 備品整備等</p>	<p>南信濃地域交流センター建設延べ床面積 取り壊し面積</p>	<p>1,548.44 m² 998m²</p>

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	699	16,900
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	125,700	421,000
	その他		80,000
一般財源	55	1,544	
事業費計(A)	126,454	519,444	
人件費	正規職員所要時間	18年度 400	19年度 600
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,430	2,146
	トータルコストA+B	127,884	521,590

特定財源内訳や補足事項	<p>過疎債(充当率100%) 546,700千円 基金80,000千円 補助金 17,599千円</p>
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムツ指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民と協働する。	協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合	現状値	34.7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	50
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
現公民館及び自治振興センターは昭和35年に建設され、老朽化が著しく有事の際に地域の防災拠点となるべき施設が危険な状態にある。また、当地域への入り込み客は、7割以上が浜松や東海地方からであり、今後三遠南信自動車道が整備されることにより、飯伊地域の玄関口として交流が促進する。 当該施設は、地域資源を活かした都市部及び飯田市民との交流の拠点となるほか、地域防災の拠点施設として、また、公民館事業やまちづくり委員会の活動の拠点施設として整備が必要である。	環境負荷及びランニングコストの削減のため、19年度実施の冷暖房施設に、代替エネルギー関連の補助事業の対象となるように取り組む。	交流の拠点、地域住民の拠り所または活動拠点として交流施設に対する期待はますます高まっている。(旧村時から住民による検討委員会、議会と協議して進めてきた事業である)

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 成果指標に直結 (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 妥当である (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 妥当である (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 対策あり (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 19 具体化	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？ 地域全体での情報の共有、ランニングコストの縮減及び環境への配慮。(未利用の自然エネルギーである地下水を熱源とした水蓄熱システムを導入し、化石エネルギーを使用しないことによるCO2の削減。)	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	